矢作川研究　No.11：13～20，2007

豊田市中心市街地の鳥類生息調査報告

A report of birds in the central city of Toyota (Aichi Prefecture)

間野隆裕・高木　久

Takahiro MANO・Hisashi TAKAGI

要　約

1）豊田市中心市街地に緑地として残る公園，神社など９地点において，ルートセンサスによる鳥類調査を実施し，９目23科44種4,483羽を記録した．
2）記録された鳥類により密度を求め，ハイタカ・アオバズク・ササゴイについて繁殖状況をまとめた．
3）調査時間と記録された種数・個体数の間に正の相関が見られた．
4）今回のデータを過去の記録と比較検討し，環境劣化が生息種に影響を与えたことが推察された．

キーワード：鳥類相，ルートセンサス，環境評価，市街地

はじめに

旧豊田市域における鳥類については，矢作川中流域河畔林（真野ほか，1998；真野・横山，1999，2000，2001，2002）で136種が記録されている．さらに丘陵地の松平・滝脇地区の報告書（真野，2002）の他，豊田市環境基礎調査報告書では163種が確認されている（深見，2005）．これらの調査地域は水辺環境であったり，森林の比較的豊かな地域や広域での記録であり，中心市街地での鳥類の調査報告書はこれまで見られない．都市緑地の鳥類の生息環境としての重要性について橋本（2005）は，大阪市と京都市における鳥類調査の結果から，生息環境適合度モデルを提言し論じている．豊田市中心市街地の生物生息状況については，これまで昆虫（田中，1999；間野，2004，2005，2006；間野ほか，2006）や植物（洲崎，2006）などの報告がなされ，都心部にパッチ状に見られる緑地について，一定の評価が行われている．

今回，『川を生かしたまちづくり事業』の一環で，中心市街地の９地点で鳥類調査を実施した．その結果について，鳥類の生息確認種を報告すると共に生息環境の違いや過去との変遷に伴う生息種の違いを評価した．

調査地・調査方法

○調査地（表１）

調査地は豊田市中心市街地ないしこれに接した最大直線距離約6.7km範囲内に位置する次の９地点とした．この９地点は，いずれも樹林が見られるか新しく緑地造成した地点である（図１）．

①西山町梅坪小学校北

梅坪町梅坪小学校北に位置する小高くなった緑地．舗装された散策歩道のついた農業用水（枝下用水）がある．標高は約80m．放置されたアラカシ・ヤブニッケイ・ヒサカキ・アオキ・ウバメガシなどの常緑樹とコナラ・アベマキ・エノキ・ヤマグワ・ヤマザクラなどの落葉樹の混交密生林が残存し，一部駐車場として使用しているものの不定期に刈り取りする草地とクリの栽培地が隣接する．

②久保町児ノ口（ちごのくち）公園

敷地面積約1.9ha．平成７年，グラウンド・プールを取り壊して，以前から見られる池に加え昔流れていた小川や里山を再現した近自然公園．植栽等によってコナラ・アベマキ・シダレヤナギ・サンショウ・アベリア・エノキ・マンサク・ヤマモモなど56種以上の樹種が見られ，タンポポ等の草本を残す草刈りにとどめるなど自然に配慮した地元住民主導の管理を行っている．敷地内にゲートボール場と池がある．

③小坂町毘森（ひもり）公園

豊田市駅西700mの高台，標高約65mに位置し，敷地面積約８ha．路面は舗装され，建物・野球場（1.7ha）のほかプールやテニスコート，弓道場などのスポーツ施設を併設し，駐車場も広くとったいわゆる都市型公園で

表1　調査地.

	調査地	面積(ha)	木　本	木本密度	草本	
①	西山町梅坪小北	4.69	全体に多い	密	多い	丘陵地に残る依存的樹林
②	久保町児ノ口公園	1.90	所により多い	粗	多い	近自然公園､自然木植栽
③	小坂町毘森公園	8.00	所により多い	場所により粗密	少ない	都市型公園､多目的使用
④	若宮町八幡社	0.23	多い	粗	殆どなし	徹底除草した都市内神社
⑤	喜多町浄久寺	0.21	少ない	極めて粗	殆どなし	徹底除草した都市内仏閣
⑥	挙母町挙母神社	0.71	一部のみ多い	場所により粗密	少ない	除草､社殿裏は枯葉置場
⑦	樹木町樹木神社	1.90	全体に多い	密	少ない	うっそうとした混交社寺林
⑧	金谷町	1.60	全体に多い	密	少ない	竹林に一部落葉樹が生育
⑨	平和町天王山古墳	3.50	全体に多い	密	少ない	常落混交の広葉樹林

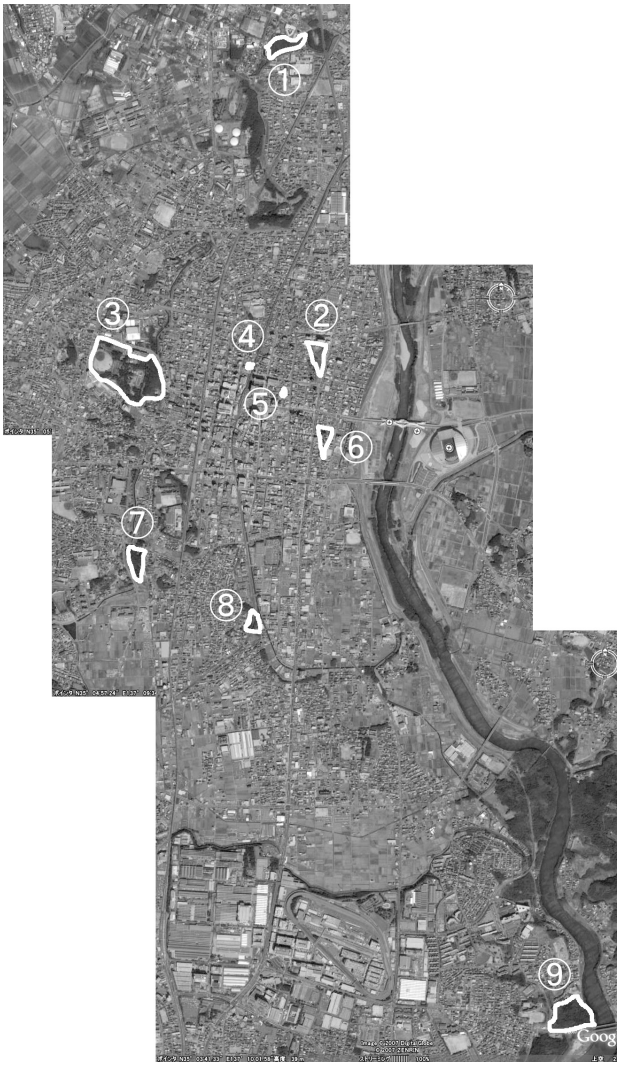

図1　調査地.

キョウチクトウ・クスノキ・アカマツ・サルスベリ・ジンチョウゲ・ナツツバキなど58種の樹木を確認している．樹林の多くでは下草が刈られているが，公園の東側を仕切るように農業用水(枝下用水)が流れ，それに沿って両岸にアラカシ・コナラ・アベマキを中心とする放置された雑木林が隣接する．

④若宮町八幡社

敷地面積約2,300㎡．簡単な社殿に公共トイレ，ベンチ付き広場がある．胸回り3.4m，樹高16mのクスノキを中心にイヌツゲ・ザクロ・サツキ・シャリンバイ・エノキ・ヤマグワなど26種の樹木が植えられるが，徹底した清掃管理のため下草はほとんど見られない．

⑤喜多町浄久寺

敷地面積約2,100㎡．その約70％を一部コンクリート建築の社殿等家屋が占め，敷地内に100㎡ほどの墓地がある．墓地内にはわずかな草本が見られるものの，ほかの敷地の草本は全て刈り取られ清掃管理されている．クスノキの大木とボダイジュ・アジサイ・ウバメガシ・マサキ・エノキなど24種の樹木が生育する．

⑥挙母町挙母神社

敷地面積約7,100㎡．境内南は散在する樹木の中に胴回り３m樹高30mのクスノキ・イチョウが数本そびえ，エノキなどの大木もあるが除草管理が徹底され，一部児童公園として使用されている．境内北側はスギ・エノキ・アラカシの大木が見られ，うっそうとしているが，樹相は貧弱で落ち葉の捨て場として利用されており草本類は極めて貧弱である．

⑦樹木町樹木神社

敷地面積約1.9ha．舗装された散策歩道で被われ暗渠

となった農業用水（枝下用水）沿いに古くから残る社寺林がある．標高約47m．都心部でもやや高台に位置し，江戸時代から矢作川の氾濫を避けた住居が発達した．コナラ・アベマキを中心としエノキ・ヤマザクラなどの落葉樹の他アラカシ・ヤブニッケイ・ヒサカキ・アオキ・カクレミノ・スギ・ヒノキなどの常緑樹と落葉樹の針広混交の密生した林で，林縁にはクリやアカメガシワ，竹林（モウソウチク）がある．

⑧金谷町

旧住宅街と新興住宅地の間に残存する竹林．タケ以外はエノキの大木やアオキなどの低木がわずかに見られる程度である．林の真ん中を私鉄の高架線路が通っている．

⑨平和町天王山古墳

古墳が残る矢作川沿いの高台に位置する樹林．腐植層は発達するものの大木は少なく，樹齢は比較的若い．

○調査方法及び調査日

調査は2002年10月から2003年９月まで、晴ないしは曇の日を選び，早朝から午前中にランダムに実施した．各調査地において11回ずつ実施した．調査地ごとの調査日及び調査時間と天候については表２の通りである．８倍の双眼鏡を用いて調査地の鳥類確認にとって最も良好な環境をゆっくり歩き，視覚以外に鳴き声によっても種を特定し，その個体数を記録した．なお調査範囲が狭い浄久寺などでは，境内にとどまり，種・個体数を記録した．

分析にあたり，季節は四季とし，春季を３－５月，夏季を７－８月，秋季を９－11月，冬季を12－２月とした．

なお野外調査は高木が行い，データの分析および本論文の記述は間野が担当した．

結　果

各地点の記録種について表３にまとめた．調査範囲で確認できた鳥類は44種4,483個体で，種数では梅坪小学校北の32種が最も多くなり，次いで毘森公園の29種，天王山古墳の26種と続く．最も少なかったのは喜多町浄久寺の９種で若宮八幡社の11種がそれに次ぐ結果となった．月別の確認種数は（表４），14種（７月）～30種（１月）であった．季節別では春季（３－５月）35種，

表２　調査地別調査日、調査時間、天候．

	2002年			2003年								総時間数3737（分）
梅坪小北	10/14 晴	11/6 晴	12/11 曇-晴	1/10 晴	2/3 晴	3/2 晴	4/4 晴	5/1 晴	7/1 晴	8/5 晴/曇	9/3 晴	674
児ノ口公園	10/10 晴	11/3 晴	12/3 晴	1/21 晴	2/6 晴	3/2 晴	4/3 曇	5/4 晴	7/15 晴	8/1 晴	9/1 晴	276
毘森公園	10/4 晴	11/5 曇	12/5 晴	1/18 晴	2/7 晴	3/4 晴	4/16 晴	5/5 晴	7/2 晴	8/3 晴	9/2 晴	903
若宮八幡社	10/11 晴	11/3 晴	12/3 晴	1/21 晴	2/6 晴	3/2 晴	4/3 曇	5/4 晴	7/5 曇	8/1 曇	9/1 晴	188
喜多町浄久寺	10/10 晴	11/3 晴	12/3 晴	1/21 晴	2/6 晴	3/2 晴	4/3 曇	5/4 晴	7/5 曇	8/1 曇	9/1 晴	220
挙母神社	10/10 晴	11/3 晴	12/3 晴	1/21 晴	2/6 晴	3/2 晴	4/3 曇	5/4 晴	7/1 曇	8/1 曇	9/1 晴	355
樹木神社	10/10 晴	11/5 曇	12/5 晴	1/8 晴	2/7 晴	3/4 晴	4/16 晴	5/5 晴	7/2 晴	8/3 晴	9/2 晴	405
金谷町	10/10 晴	11/5 曇	12/5 晴	1/8 晴	2/7 晴	3/4 晴	4/16 晴	5/5 晴	7/18 晴	8/3 晴	9/2 晴	336
天王山古墳	10/3 晴	11/10 晴	12/14 晴	1/12 晴	2/9 晴	3/4 晴	4/1 晴	5/6 晴	7/18 晴	8/7 晴	9/7 晴	380

表３　調査地別確認種と個体数.

2002年10月～2003年９月					梅坪小	児ノ口	毘森	若宮	喜多町	挙母	樹木	金谷町	天王山	合計
分類(目)	分類(科)	和名	学名	渡り	学校北	公園	公園	八幡社	浄久寺	神社	神社		古墳	個体数
コウノトリ	サギ	ササゴイ	*Butorides striatus*	夏						48				48
		ダイサギ	*Egretta alba*	留								1		1
		コサギ	*Egretta garzetta*	留		4								4
		アオサギ	*Ardea cinerea*	留	3				1			4		8
タカ	タカ	ハイタカ	*Accipiter nisus*	留						1				1
キジ	キジ	コジュケイ	*Bambusicola thoracica*	留	1									1
		キジ	*Phasianus colchicus*	留	1						1			2
ハト	ハト	キジバト	*Streptopelia orientalis*	留	58	13	84	4	4	32	52	31	16	294
フクロウ	フクロウ	アオバズク	*Ninox scutulata*	夏		6								6
アマツバメ	アマツバメ	アマツバメ	*Apus pacificus*	旅				3						3
ブッポウソウ	カワセミ	カワセミ	*Alcedo atthis*	留		1								1
キツツキ	キツツキ	アカゲラ	*Dendrocopos major*	留	1		1						3	5
		コゲラ	*Dendrocopos kizuki*	留	5		7						2	14
スズメ	ツバメ	ショウドウツバメ	*Riparia riparia*	旅			30							30
		ツバメ	*Hirundo rustica*	夏	23	9	21			4	23	17	3	100
		イワツバメ	*Delichon urbica*	夏									30	30
	セキレイ	キセキレイ	*Motacilla cinerea*	留	5	1	4			2	2		2	16
		ハクセキレイ	*Motacilla alba*	冬	3		10	1			5		7	26
		セグロセキレイ	*Motacilla grandis*	留	7		4			1	2	1	7	22
		ビンズイ	*Anthus hodgsoni*	冬	2		32							34
	ヒヨドリ	ヒヨドリ	*Hypsipetes amaurotis*	留	257	62	301	41	18	190	143	64	116	1192
	モズ	モズ	*Lanius bucephalus*	留	9	1	5			1	5	8	2	31
	ツグミ	ルリビタキ	*Tarsiger cyanurus*	冬	3		1						2	6
		ジョウビタキ	*Phoenicurus auroreus*	冬	7		4		1		2			14
		シロハラ	*Turdus pallidus*	冬	6	1	14			1	1	1	1	25
		ツグミ	*Turdus naumanni*	冬	8	4	2	10		8	3	1	2	38
	ウグイス	ウグイス	*Cettia diphone*	留	5								1	6
		センダイムシクイ	*Phylloscopus coronatus*	夏							1		1	2
	ヒタキ	キビタキ	*Ficedula narcissina*	夏			2						1	3
		オオルリ	*Cyanoptila cyanomelana*	夏							2			2
	エナガ	エナガ	*Aegithalos caudatus*	留	30		11				3		10	54
	シジュウカラ	ヤマガラ	*Parus varius*	留	5		11						4	20
		シジュウカラ	*Parus major*	留	19	1	28	2		1	4	2	13	70
	メジロ	メジロ	*Zosterops japonica*	留	60		63	6		3	8	2	32	174
	ホオジロ	ホオジロ	*Emberiza cioides*	留	11							1		12
		カシラダカ	*Emberiza rustica*	冬	6		16							22
		アオジ	*Emberiza spodocephala*	冬	21	2	31					3	7	64
	アトリ	カワラヒワ	*Carduelis sinica*	留	1	5	60		3	8	6	3		86
		イカル	*Eophona personata*	留	1	6	5	5		114	18			149
	ハタオリドリ	スズメ	*Passer montanus*	留	262	65	121	50	75	77	114	281	66	1111
	ムクドリ	ムクドリ	*Sturnus cineraceus*	留	37	54	64	1	20	55	24	48	4	307
	カラス	カケス	*Garrulus glandarius*	留	8		6				1		4	19
		ハシボソガラス	*Corvus corone*	留	19	11	38	5	5	19	7	18	17	139
		ハシブトガラス	*Corvus macrorhynchos*	留	34	7	49		8	13	16	150	14	291
					918	253	1025	128	135	578	443	636	367	4483
			種数44		32	18	29	11	9	18	23	18	26	

※ハイタカ:国、県準絶滅危惧(NT)

夏季（７－８月）17種，秋季（９－11月）34種，冬季（12－２月）31種で，夏季を除く３季で記録種数の変動はあまり見られなかった．夏季の種数が少なかった理由としては，６月のデータが欠測していたことが大きかったと考えられる．調査地別では梅坪小学校北が春23種，冬26種と最も多くなり，毘森公園が夏11種，秋22種と最も多い種類を記録した．逆に最も少ない種数であったのは，春と夏が若宮八幡宮の５種と３種で，秋と冬が喜多町浄久寺の４種と５種であった．

各調査地の種数，個体数，総調査時間，調査密度をまとめた（表５）．個体数では毘森公園が最も多く，梅坪小学校北，金谷町の順となり，最も少なかったのは若宮八幡社，次いで浄久寺の順となった．なおこの中には，金谷町のハシブトガラス（130羽）および挙母神社でのヒヨドリ（70羽）・イカル（100羽）の集団が含まれる．毘森公園が最も多くなったのはヒヨドリの個体数（９回の計301羽）が原因である．時間あたりの種数密度は天王山古墳が最も高く児ノ口公園がそれに続く．時間あたりの個体数密度は金谷町が最も高くなり，浄久寺が最も低くなった．

今回記録された44種のうち，１カ所だけから記録された種はササゴイ・ダイサギなど11種（25％）であった．また２カ所から記録された種を加えると，全体の約43％にあたる19種であった．逆に９地点全ての調査地から記録された種はキジバト・ヒヨドリ・スズメ・ムクドリ・ハシボソガラスの５種であった．

調査期間中の繁殖状況についてまとめた（表６）．幼鳥は３種，繁殖は８種，さえずりは８種確認した．調査地別では，毘森公園が４種，児ノ口公園の３種と続いた．

今回の調査結果を基に調査時間と種数，及び個体数，

表４　月別及び季節別種数．

	梅坪小学校北	児ノ口公園	毘森公園	若宮八幡社	喜多町浄久寺	挙母神社	樹木神社	金谷町	天王山古墳	計
10　月	12	3	13	1	3	6	10	6	7	17
11　月	14	9	15	4	4	6	8	5	14	28
12　月	14	3	15	3	4	9	9	6	7	24
1　月	19	7	21	3	3	7	6	12	17	30
2　月	20	7	14	2	4	6	5	5	8	26
3　月	15	7	15	3	4	7	9	6	8	24
4　月	14	8	15	4	5	6	10	9	9	26
5　月	10	6	9	3	5	8	8	6	9	15
7　月	8	8	8	2	5	6	6	8	4	14
8　月	8	3	8	3	4	7	7	7	5	15
9　月	7	5	11	5	1	6	7	4	7	16
春　季	23	11	21	5	7	11	16	11	16	35
夏　季	10	8	11	3	7	7	7	9	6	17
秋　季	19	12	22	8	4	10	15	7	18	34
冬　季	26	8	23	6	5	13	12	13	18	31
種　数	32	18	29	11	9	18	23	18	26	44
個体数	918	253	1025	128	135	578	443	636	367	4483

表５　調査地別密度．

2002年10月～2003年9月	梅坪小学校北	児ノ口公園	毘森公園	若宮八幡社	喜多町浄久寺	挙母神社	樹木神社	金谷町	天王山古墳	合　計
調査回数	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11
記録種数	32	18	29	11	9	18	23	18	26	44
個体数	918	253	1025	128	135	578	443	636	367	4483
調査時間（分）	674	276	903	188	220	355	405	336	380	3737
密度＝（種数 / 時間（分））×100	4.75	6.52	3.21	5.85	4.09	5.07	5.68	5.36	6.84	1.18
密度＝個体数 / 時間（分）	1.36	0.92	1.14	0.68	0.61	1.63	1.09	1.89	0.97	1.20
面積	1.8	1.9	8.0	0.23	0.21	0.7	1.9	1.0	2.4	17.7

表6　さえずり及び繁殖.

So：さえずり　H：繁殖　J：幼鳥　　表中数字は確認月を示す

分類（目）	分類（科）	和　名	学　名	渡り	梅坪小学校北	児ノ口公園	毘森公園	若宮八幡社	喜多町浄久寺	挙母神社	樹木神社	金谷町	天王山古墳
コウノトリ	サギ	ササゴイ	*Butorides striatus*	夏						H-5～8			
フクロウ	フクロウ	アオバズク	*Ninox scutulata*	夏		H-6･7							
スズメ	ツバメ	ツバメ	*Hirundo rustica*	夏		H-4							
	セキレイ	キセキレイ	*Motacilla cinerea*	留			J-10						
	ウグイス	ウグイス	*Cettia diphone*	留	So-4								
	ヒタキ	キビタキ	*Ficedula narcissina*	夏			So-5						So-5
		オオルリ	*Cyanoptila cyanomelana*	夏							So-4,J-9		
	シジュウカラ	ヤマガラ	*Parus varius*	留			H-6,J-10						
		シジュウカラ	*Parus major*	留	So-3･4								
	メジロ	メジロ	*Zosterops japonica*	留				So-8					
		イカル	*Eophona personata*	留		So-3							
	ムクドリ	ムクドリ	*Sturnus cineraceus*	留					So-3	H-5～8			
		ハシボソガラス	*Corvus corone*	留			H-3～5		H-3				H-3・4

また調査面積と種数及び個体数の関係をみたところ，調査時間と種数，及び個体数の間には高い相関が見られた（図２，図３）．しかし調査面積と種数（ｒ＝0.637，Ｐ＝0.07）及び個体数の間（ｒ＝0.673，Ｐ＝0.06）には相関はみられなかった．同様に季節別に見たところ，調査時間と季節別の記録種数の間にはそれぞれ相関が見られたものの，調査面積と季節別記録種数の間には相関は見られなかった．また記録個体数との間においては，冬のみ調査時間と調査面積との間に相関が見られたが，他は相関が見られなかった（表７）．

○毘森公園における過去の記録との関係

西三河野鳥の会の木村修司氏は，1983年５月から１年間（月１回延べ14時間）毘森公園で８倍の双眼鏡を使用して野鳥調査を行い，21科40種1,327羽を記録している（未発表）．今回毘森公園では16科29種1,025羽を記録しているので，今回より11種多いことになる．今回記録し木村氏が記録できなかった種は，アカゲラ・コゲラ・ショウドウツバメ・ルリビタキ・キビタキ・ヤマガラの６種で，逆に木村氏の記録した種で今回記録出来なかった種は，コサギ・コジュケイ・キジ・イワツバメ・ウグイスなど17種に及ぶ．そのうちケリ・アオバト・ヒガラ・ホオジロ・シメ・ニュウナイスズメなどの12種は今回他の調査地でも記録出来なかった．もっともその中のカワウ・ゴイサギ・チュウサギ・トビ・コシアカツバメ・サンショウクイの６種は上空を通過した個体であったという．

考　察

今回の調査結果を基にして求めた，調査時間と種数，及び個体数，また調査面積と種数及び個体数の関係からは，調査時間と種数，及び個体数の間には相関が見られ，調査面積と種数及び個体数の間には相関はみられなかった．したがって記録される種数と個体数はその時の調査時間に関係し，調査面積との関連は薄いという結果になった．ただ季節別に詳細に見れば，調査時間と記録個体数の間の相関は冬季以外は見られないという結果になった．一般に面積が大きいほど多様な環境が創出され，より大型の鳥類では生存するために広い面積を必要とすることから，そこに生息する鳥類の種数は面積の増大に伴って増加する．今回の結果はそうならなかったのは，面積がさほど広くなくても多様な環境が見られる梅坪小学校北や天王山古墳で，多くの鳥類が記録されたためである．ただ調査時間に対する相関において，記録個体数より記録種数の方が高かったという事実は，個体数については群れの状況やその他の要因によって変動しやすいこ

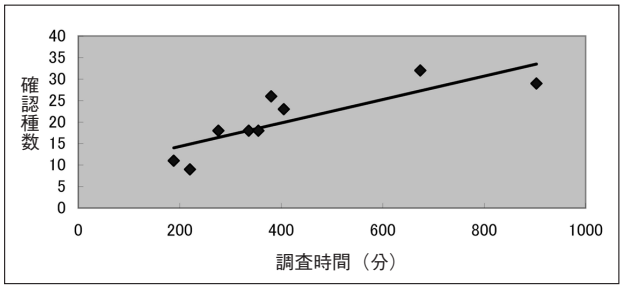

図２ 確認種数と時間との関係． y＝0.028x＋8.725
r＝0.84**

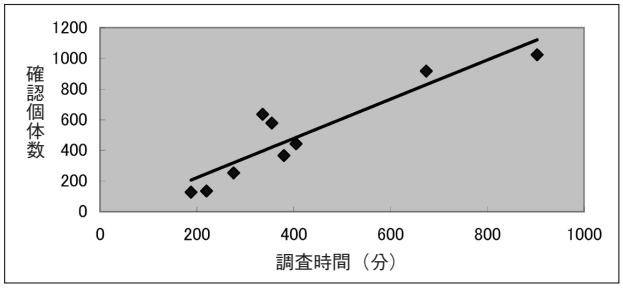

図３ 確認個体数と時間との関係． y＝1.280x－33.26
r＝0.92**

とを物語っていると考えられる．いずれにしても今回の調査地を総覧すれば，狭い面積で樹木のまばらな喜多町浄久寺や若宮町八幡社では，非常に貧弱な種数・個体数にとどまった．開けた場所，水場，豊かな木の実がある林など梅坪小学校北の多様な環境に対して，大半が竹林となっている金谷町の種数が少なかったことからも，鳥類の生息にとっては，面積と同様その環境の質も重要であることが窺える．

○毘森公園における過去の記録との関係

毘森公園では，1983年の調査が12回14時間に対して，今回の調査は11回903分（約15時間）であったので，この二つの調査結果の違いは，調査時間の長さの違いによるものとは思われない．調査員の違いも影響がないとは言えない．また，調査頻度から来る偶然性に左右されたことも考えられるが，20年間の環境変化が大きな原因である可能性も否定出来ない．すなわち1983年当時雑木林であった所を舗装駐車場に整備し，隣接する水田は埋め立てられ，公園の一角には，結婚式場と病院が建設された．当時木村氏の記録から，コジュケイやキジが繁殖していた．これは当時繁殖に適していた草藪が存在したことを物語っている．ケリも生息していたが，その記録は公園に隣接する水田の存在が重要であったことを意味する．さらに，アオバトの確認は，当時毘森公園から１kmほどの所にあった繁殖地の存在が大きいという（現在は公共施設が建設されている）．これらのことから，毘森公園における20年間の環境変化は，そこに生息する鳥類にとって，生息環境の劣化を招いたことを示しているといえよう．

表７ 調査面積・調査時間と記録種数・個体数との相関．

		調査面積	調査時間
記録種数	春季	0.5710	0.8881**
	夏季	0.6025	0.7780
	秋季	0.7319	0.8387**
	冬季	0.5024	0.8843**
記録個体数	春季	0.6260	0.6420
	夏季	0.4440	0.6038
	秋季	0.6823	0.5650
	冬季	0.7559*	0.8454**

※表中数字は相関関係 r を示す

○注目すべき種類

ハイタカの記録状況

挙母神社では国及び県の絶滅危惧種に指定されているハイタカが記録された．このハイタカは2002年11月３日8:00頃南方上空を偶然飛んでいた個体で，境内のドバトを目がけて突入するように飛来．境内にいたカラスに攻撃されてすぐに退却して飛び去っていった．上空を移動中の個体であっても，餌などを確保出来る環境さえあれば立ち寄ることを示している．

ササゴイの生息状況

挙母神社にはササゴイが集団で営巣していることを確認した．初見は５月４日営巣４巣，親鳥が巣を離れたのは８月１日で，８月18日ヒナ13羽を確認，９月１日には巣立ったためか確認することが出来なかった．今回の調査では合計24巣確認したが，これは調査前年の20巣（未発表）に比べやや多い数であった．当神社での営巣は少なくとも調査年より過去３年は繰り返されているという（宮司談）．営巣場所の下には，アユと思われる食べ残しの残些がかなり見られ，悪臭を放つ時もあった．当神社はアユの繁殖する矢作川から直線距離で約300mと近く，地上の人間生活の影響を受けにくい相当高いところに営巣出来るような樹木のあることが，繁殖する要因の一つと考えられる．近隣では当地から直線距離4.4kmの水源町矢作川堤外地でも営巣が確認されている（未発表）．

アオバズクの生息環境とその保全

アオバズクが生息するためには，その営巣できる巨木

の存在と餌の確保が必須条件である．現在児ノ口公園では夏季にアオバズクが生息繁殖しているが，少なくとも2002年には繁殖が確認され，その４～５年前から生息が確認されているという（新見，2002）．アオバズクは止まり木の周辺でフライキャッチングによる狩りをするが（冨田，1991），繁殖にあたってはヒナの成長に伴って大量の餌が必要となり，行動圏は半径100m以上を越えることもあるという（谷口，1983；冨田，1991）．また富沢（2001）は，「落とし餌」の調査によってトンボ２種，ガ類25種，甲虫14種を確認し，これらから，餌として少なくとも夜間活動性の大型昆虫類を利用していることがわかったという．一方橋本（2005）はアオバズクの生息環境について，樹冠面積・市街地面積・大木数・樹洞を有する木の本数などの変数を用いた生息環境適合度モデルによって評価をしている．それによるとアオバズクの生息環境保全には，繁殖樹洞木から半径100m以内に少なくとも1.1haのまとまった樹林が必要で，市街地に隣接していると餌場が減り巣立ち直後の幼鳥と人との干渉帯が必要とのことから，もう少し多くの樹林帯が必要であるとした．もともと児ノ口公園はグラウンドなどから近自然公園に作り替えたところで，新見（2002）のいう生息確認時期はちょうどその造成後にあたる．現在公園敷地面積は約1.9haで，ゲートボール場などはあるものの，その樹冠からすれば橋本のいうアオバズクの生息環境保全に必要な1.1haの樹林は確保されていると言える．しかし公園は近隣の住民や犬などの散歩コースなど，憩いの場となっており，人との干渉は少なからずあり，アオバズク生息にはストレスとなっていると考えられる．現実に2004年，児ノ口公園で生育したと思われるアオバズク幼鳥が散歩する小学生によって付近で発見され，当研究所が保護し関係機関と連絡を取り給餌をした後放鳥したということがあった．今後アオバズクの生息環境保全のためには，餌を確保するための樹林等の一層の質の向上と人間生活との共生を考えていく必要がある．

謝　辞

発表にあたり文献供与と共に多くのご助言を頂いた，名城大学農学部講師　橋本啓史博士，多くの示唆を与えて頂いた田中　蕃氏（名城大学特任教授）と日本野鳥の会チーフレンジャーで豊田市自然観察の森所長　大畑孝二氏，また未発表資料を提供して頂いた西三河野鳥の会　木村修司氏に厚くお礼を申し上げます．

引用文献

橋本啓史（2005）都市緑地の保全と創出における鳥類の生息環境適合度モデルの応用．自費出版．123pp.

深見　弘（2005）豊田市自然環境基礎調査報告書：本編XI鳥類．p.393－439．資料編XI鳥類．p.395－400．豊田市．

間野隆裕（2004）豊田市都心部のチョウ類群集．矢作川研究，8：115－121．豊田市矢作川研究所．

間野隆裕（2005）豊田市都心部のチョウ類群集（2）．矢作川研究，9：69－78．豊田市矢作川研究所．

間野隆裕（2006）豊田市都心部において糖蜜で誘引されたガ類群集．矢作川研究，10：5－14．豊田市矢作川研究所．

間野隆裕・須摩靖彦・蟹江 昇（2006）豊田市中心市街地のベイトトラップ調査．矢作川研究，10：15－42．豊田市矢作川研究所．

真野　徹（2002）豊田市東部丘陵地における鳥類相．矢作川研究，６：39－55，豊田市矢作川研究所．

真野　徹・横山則一（1999）第２回矢作川中流域の鳥類基礎調査報告．矢作川研究，3：157－201．豊田市矢作川研究所．

真野　徹・横山則一（2000）第３回矢作川中流域の鳥類基礎調査報告．矢作川研究，4：61－99．豊田市矢作川研究所．

真野　徹・横山則一（2001）第４回矢作川中流域の鳥類基礎調査報告．矢作川研究，５：109－165．豊田市矢作川研究所．

真野　徹・横山則一（2002）矢作川中流域の鳥類相．矢作川研究，６：57－80．豊田市矢作川研究所．

真野　徹・横山則一・畑佐武司（1998）第１回矢作川中流域の鳥類基礎調査報告．矢作川研究，２：129－189．豊田市矢作川研究所．

新見幾男（2002）児ノ口公園でアオバズクが巣作り．Rio，51：３．豊田市矢作川研究所．

洲崎燈子（2006）まちの中に息づく自然．Rio，94：３．豊田市矢作川研究所．

田中　蕃（1999）二つの人工的自然公園で見られるようになった蝶類．矢作川研究，３：117－133．豊田市矢作川研究所．

谷口一夫（1983）繁殖期におけるアオバズク*Ninox scutulata*の残し餌について．鳥，32：145－152．

冨田良雄（1991）『アオバズクを追って－アマチュア写真家の生態観察－』．50pp．自費出版．

富沢　章（2001）アオバズクが捕食する昆虫について－「落とし餌」からの検討－．*Strix*，19：121－127．

1）豊田市矢作川研究所総括研究員：
〒471-0025 愛知県豊田市西町2-19 豊田市職員会館１F
2）西三河野鳥の会会員：
〒471-0006 愛知県豊田市市木町5-2-7